

## 教育訓練動画の作成について（案）

### 1 目的

- (1) 訓練指導マニュアルに基づき、救助隊長による訓練指導モデルを見える化(映像化)するもの。
- (2) より効果的な資料とするため、具体的な訓練時の指導要領方法をわかりやすく解説をつけ、丁寧に説明する。

### 2 構成（案）

- (1) 効果的な訓練モデル(別紙)

環境づくり

→ 企画(計画)

→ 導入(ブリーフィング、使用資機材の確認、資機材準備、安全管理体制の確認)

→ 訓練実施(展示、訓練、撤収)

→ 振り返り(検証・評価)

→ 改善・見直し

- (2) 訓練時の効果的な指導方法等について解説

各項目について、訓練指導時において、特に留意すべき点について解説


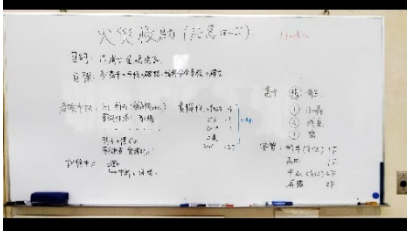
### 3 協力依頼消防本部

動画撮影については、東京消防庁救助課即応対処部隊に協力依頼。

### 4 スケジュール等

- (1) 令和5年1月上旬に東京消防庁救助課即応対処部隊に撮影詳細を説明
- (2) 令和5年1月中旬に2日間(午前中)を確保し、撮影

訓練動画シナリオ(案)

項番	項目	細目	画像モデル	解説等
0	環境づくり	マインド(心構え) コミュニケーション 雰囲気づくり		<p>権威勾配(階級や職制、責任、経験等において高低差が生じることをなくし、明瞭な指示・指揮のもと、なおかつ隊員が遠慮なく意見具申ができる環境づくりに努める。また、当該訓練を企画した目的や意図、到達目標を明確に伝えること。</p> <p>そのためには、普段からのコミュニケーション、雰囲気づくり、そして、教える側、教わる側の心構えが必要となる。時には、指導者や訓練企画者を隊員にやらせることも大切であり、部下や隊員を育てる貴重な時間であることを認識する。</p>
1	企画	計画		<p>訓練目的と到達目標を明確にし、訓練を計画する。</p> <p>特に留意すべき事項として、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訓練時間</li> <li>・訓練目的・目標</li> <li>・危険要因</li> </ul> <p>到達目標等を設定するとともに指導する側の到達レベルも意識する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導の狙い</li> <li>・指導の到達目標を設定することも忘れない。</li> </ul>

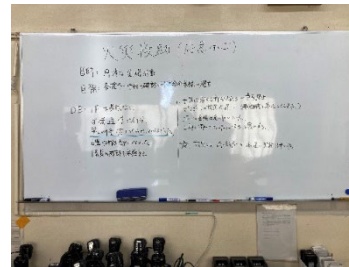
	導入	ブリーフィング 使用資機材の確認		<p>訓練時間、訓練目的、到達目標を明確にする。</p> <p>特に災害事例を参考にし、より現実に即した訓練を実施する場合は、訓練目的を明確にすること。</p>
		資機材準備 安全管理体制の確認		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 資機材の確認(故障、欠損等の把握)</li> <li>• 安全監視員の配置及びその説明</li> <li>• 使用する訓練棟、訓練場所の安全確認(障害物確認、訓練棟確認、訓練想定上の障害等)を確認する。</li> </ul>
2	訓練実施	展示		<p>今後、実施する訓練を展示する。</p> <p>展示方法の例として</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 要点を具体的に示す。</li> <li>• 行動を分解して示す。</li> <li>• 要点の中で、特に重要な部分だけを抽出して、示す。</li> <li>• 行動を区切って示す。</li> <li>• 全体を流して示す。</li> </ul> <p>これから実施する訓練を見せることで、実施者の理解を深める。</p>

	<p>訓練</p>		<p>訓練実施中に指導者として、確認すべき点は、以下(例)のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訓練実施者は、要点を理解しているか。</li> <li>・訓練目的に誤解がないか。</li> <li>・危険要因がないか。</li> </ul> <p>危険な行動は、躊躇なく停止させる。</p> <p>なお、動画等の記録映像があると、のちに検証・評価をする際に参考となり、客観的に評価することができることがある。</p>
	<p>撤収</p>		<p>訓練が終了した際には、出動態勢を速やかに構築するために、確実に撤収を行う。</p> <p>訓練終了後は、疲労感などがあるため、けが等が発生する可能性がある。そのため、危険を察知した場合は、すぐに作業を中止させる。</p> <p>また、熱中症、疲労感等を考慮し、訓練を実施する隊員の顔色等を注意深く観察し、休憩、水分補給等を指示する。</p>

3

振り返り

評価・検証




検討事項を洗い出し、修正をするための検証を実施することも大切だが、次回の訓練で、よりよい活動ができるような振り返りを行う。“さらに”効果的に活動するには、どのような活動をしたほうが良いのかを考え、共有することが重要である。

また、訓練の最中にその都度実施するべきか、実施後に総括してどうするべきかは、指導目的に応じて、総合的に判断する。以下に留意して、振り返り(検証・評価)を行う。

- 公平に行う。
  - 短所を改善、長所の伸長を図る。
- 特に、良い活動、行動は、必ず褒めて、認めてあげることが大切である。そのために、隊員の活動をよく観察する。
- 訓練・指導目標が達成できたのかを検証し、良い点・改善すべき点の両方から原因を抽出する。

そして、指導者自身の振り返りも忘れない。指導内容自体が適正だったのか、指導内容を客観視し、指導をより効果的なものとする。

4	改善・見直し	改善・見直し		<p>訓練の実施結果から次回の訓練計画について反映を行う。</p> <p>録画映像等があれば、振り返りのために積極的に活用する。映像資料は、自己を振り返る教養資料である。</p> <p>指導要領については、より効果的な指導ができるように、指導者の振り返り用として、活用する。</p> <p>訓練は1回で終了ではない。次の訓練で、さらに、良い活動をすることを目標に、繰り返し訓練を実施することが大切である。</p>
---	--------	--------	--	--